

祭はやし

ビタミンC

第 54 号

平成 23 年 11 月 1 日 発行

霜月号

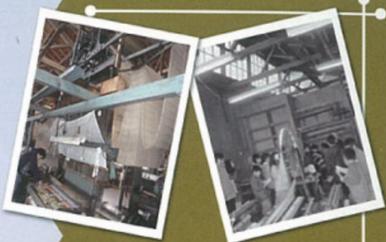
のこぎり屋根、一宮市が

日本一

繊維産業が盛んであった一宮市は、機屋（はたや）さんの、のこぎり屋根の現存数が1500～2000棟と日本一！
操業中の機屋さんの近くで、耳を澄ませば、ガチャン、ガチャン、と元気なはた音が聞こえてまいります。

第 54 号 目次

■特集 のこぎり屋根	2	■夏祭り	8
■萩の里 10 周年特集	4	■桜井たご感想文/やまびこキャンプ/介護員養成講座 (ヘルパー 2 級)	9
■新施設長紹介	6	■今昔物語	10
■敬老の日	7	■平成23年度新入社員/創作キルト常設ギャラリー完成/編集後記	11



一宮市名物の「こぎり屋根」とは？



『のこぎり屋根』名前の由縁は？

皆さんはのこぎり屋根という言葉を知っていますか？
一宮市の主産業であった、繊維業を行う機屋（はたや）さんの屋根がのこぎりの刃の様にギザギザとした形であったので、その様に呼ばれています。一宮市内、特に旧尾西市を散策していると、今でもたくさん見ることが出来ます。

なぜのこぎりの様な形をしているの？

太陽光を直接建物に入るようにせず、北側の屋根から効率的に一定の光を取り入れ、繊維の自然な色を見るためです。

尾西織物の歴史

1872年 (明治5年) 双子稿を生産。

1891年 (明治24年) 濃尾大震災で多数の機業者が被災。これ以降、綿作が急激に衰退。中島郡結城^{ゆうき}編織物^{ひんし}組合を結成。

1892年 (明治25年) バッタン機を導入。震災復旧のため大工場建設の機業家出現。着尺セルを試織するも整理加工が不完全で失敗。

1905年 (明治38年) 尾西織物同業組合を結成。

1909年 (明治42年) 一宮瓦斯を設立。バッタン機を足踏式に改良。

1914年 (大正3年) 第一次世界大戦が勃発し、毛織物の輸入が途絶える。

1925年 (大正14年) 尾西織物同業組合が裕向きセル「ウールライン」を発売。

朝鮮半島で戦争が始まる。

戦地に近い日本は米軍から注文が入ってきた。

日本経済は一気に活気づき、織物産業も好景気。

ガチャンと一織りすれば、一万円儲かるという意味の「ガチャ万」という言葉が出来る。

1951年 (昭和26年) 好景気は繊維製品が大量に出回り過ぎた為、一年程しか続かなかった。

一宮喫茶店文化とも関係がある？

一宮市は全国的にも喫茶店のモーニングが有名ですが、この喫茶店文化にも実はのこぎり屋根（機屋さん）は関係しています。商談を行う際、機屋の近くでは機織機の音がガチャン、ガチャンとうるさいため、近くの喫茶店に行き商談を行ったそうです。そのお陰で、喫茶店が流行り、それが現在の喫茶店文化の発展に関係していったそうです。

気にかけて探してみると、

たくさんあります。

一宮市内を散策してみると、旧尾西市以外にもたくさんこのこぎり屋根を見つげることが出来ます。中には、現在操業していない機屋の中を改装して一般住宅にリフォームしてみえる方もみえます。機械を撤去すると中のスペースはかなり広く、涼しいので快適に過ごせるそうですよ。一宮市の伝統的な景観として何らかの形で保存されていくことを願っております。皆さんも是非、探してみてくださいね。



祝・萩の里10周年

地域の方々が中心となり、お手伝い頂いている、ボランティア萩さんです。平成14年1月から、数多くの活動をして頂き、萩の里は支えられてきました。これからもよろしくお願いたします。

平成18年4月 皇太子殿下がご視察にいらっしゃいました。殿下の優しいお姿、お声がけに、ファミリーもスタッフも、たいへんな感動とやすらぎをいただきました。



季節の行事において、ボランティアさんの存在はとてもありがたいものです。この日はお餅つき。たくさんのボランティアさんの手加わったことで、ひときわおいしいお餅が出来上がりました。

ヤナ場外出でのひととき。川のせせらぎが聞こえる、涼やかな雰囲気の中で食す鮎は絶品!箸が自然とすすみます。



毎年恒例、萩の里の夏祭りです。ファミリー、ご家族のみならず、地域の方々もお招きして、楽しんでいただく様にとめております。皆様の喜ぶ姿が全スタッフの元気の源です。



平成23年5月 萩の里開所10周年記念にて、金沢蓄音器館、八日市屋典之館長による蓄音器の演奏会を開催させていただきました。「リンゴの唄」等の戦前戦後の懐かしいメロディーを演奏されると、皆さん口ずさみ楽しんでみえました。また、クラウン協会、大棟耕介さんによる講演においては、道化師によるパフォーマンスがあり、皆さん笑顔が絶えませんでした。



平成13年4月 一宮市萩の里特別養護老人ホームは一宮市から管理委託のご下命をいただき運営を始めました。開所以来、多くのファミリー、ご利用者、ご家族、ボランティアの皆様、地域の皆様方のご協力をいただき、この度、10周年を迎えることが出来ました。今後とも宜しくお願い致します。

10年間の歩み



佐渡ヶ嶽部屋の力士さんとの交流。よく見ると椅子は二人掛けです。身体の大きさに皆さん驚かされてみえました。



入鹿池の宿泊施設にてファミリーとの1泊旅行。マイクを片手に良い気分。一緒に過ごさせていただいた時間が萩の里の財産です。



春のいちご狩り外出。大きく熟した実を見つけたときは感動ひとしおです。



平成16年5月 3周年記念の開所記念祭、スタッフによるソーラン節です。練習では息が合わなかったのに、本番ではピッタリと合い、ファミリーに大好評でした。

萩の里 10th anniversary

これからも利用者の方々の健康維持や笑顔あふれる
和やかな施設を目指して参ります。

AICHI KEIKOU SHUKAI

敬老の日

あいふるの里より

子ども会と一緒に敬老会

- 地域の子ども会の皆様に敬老の日のお祝いをいただきました。
- プレゼントをもらい、「ありがとう。」と喜ぶファミリーの顔は笑顔であふれていました。
- 熱気あふれる“ソーラン節”で盛り上がり、ファミリーも元気をいっぱいもらった様子でした。




スタッフによる “ソーラン節”

敬老祝いにっこり!!

萩の里より

長寿を祝う敬老会

9月15日、萩の里では敬老会を行いました。100歳を越えてみえるファミリー2名を含め皆様の長寿のお祝いをしました。当日は「北方大正琴の会」様に慰問に来て頂き、大正琴の調べに聴き入りました。



小川の里より

祝敬老 紅白旗で万歳!

- 夏の間降り注いだ蝉時雨も止み、秋の虫達の音が聴こえ始めたこの頃、敬老会を開催!
- セーラー服姿のAKBダンス!
- 紅白旗揚げゲームで大爆笑の会でした。
- スタッフ一同ファミリーのご健康とご長寿をお祝いし楽しんで頂きました。



新和楽荘より

フラダンスで敬老会を祝う!

新和楽荘では毎年敬老会の代表の方を年男・年女の方になって頂いています。今年は1名の方しかみえず、緊張されていましたが、式も滞りなく行われました。式終了後はフラダンスショーが行われ、ファミリーのご健康とご長寿のお祝いに花を添えました。



新施設長紹介

こはるびより  安城

小川の里 施設長 萬代博之

今回初めて安城の地にお世話になります。今まで一宮の小規模特養の管理者経験しかなく、法人の四本柱の一角を担うことに不安でいっぱいですが、地域の皆様に少しでもお役に立てるよう努力して参る所存です。よろしくお願いいたします。



高齢者福祉施設

あいがいっぱい  iFul no Sato

あいふるの里施設長 長野秀人

平成23年9月1日より高齢者福祉施設 あいふるの里に就任いたしました。高齢者福祉施設 新和楽荘 荘長として多くの方々に支えてもらいました。あいふるの里には、10年ぶりに施設長として帰ってまいりました。あいふるの里の開所当時の熱い気持ちを思いだし、初心にかえり不惜身命、頑張りたいと思います。



高齢者福祉施設

ひだまりの詩  安城

新和楽荘 荘長 近藤茂夫

この度、新和楽荘荘長就任にあたり、その、職責の重大さに戸惑っておりますが、ファミリーの皆様が家庭的な雰囲気のもと、ご家族や地域の皆様との結びつきを重視した施設づくりを実現する為努力して参りますので、ご指導の程、宜しく申し上げます。



高齢者福祉施設

こはるびより  安城

ケアハウス 小川の里 施設長 丸山和彦

ケアハウス小川の里の施設長就任にあたり、施設開所以来10年間で築き上げられたものを、しっかりと受け継ぎ、さらにファミリーの皆様によりよい施設と感じていただけるよう、汗をかくことを惜みせず努力してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



高齢者福祉施設

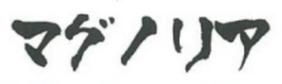
ライフガーデン  HAGI no SATO

萩の里 施設長 中島 誠

平成23年9月1日より、萩の里施設長に就任致しました。愛知慈恵会の法人理念である「高齢者に快適を、ご家族に安心を」を念頭に、地域の高齢者福祉に微力ながら貢献できるよう取り組んでまいります。萩の里が地域の皆様方に愛される施設であるよう、精一杯努めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援を宜しくお願い致します。



高齢者福祉施設

風の苑  マグノリア

風の苑マグノリア 施設長 岩井宏之

平成23年9月1日より地域密着型特別養護老人ホーム風の苑マグノリアの施設長に就任いたしました。ファミリーが楽しく暮らせる家庭的で暖かい雰囲気の施設で働けることを誇りに思い、さらにより良い施設を目指して参りますので、ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



高齢者福祉施設

安城「桜井凧」文化継承活動 DVD 「天まであがれ桜井凧」の感想文を いただきました。

小川の里では地域文化継承活動として、安城市桜井町に古くから伝わる「桜井凧」作りの過程を、愛知県遊技場商品販売加工連合会様のご支援により DVD に収め、地域の各学校へ送付させていただきました。

生徒の皆様からは心温まる感想文を数多くいただき、その1つをここで紹介させていただきます。

今後とも地域の方々と交流を深めながら、伝統文化を守り、受け継いで行く活動に取り組んでまいります。

DVDをご希望の方は小川の里 総務まで
TEL:0566-73-7011



「天まであがれ桜井凧」を見て

安城市立今池小学校 6年1組、名前 山村 彩乃
「天まであがれ桜井凧」を見て、桜井凧をつくるまでの手間と時間におどろきました。心を曲げるところでは、火であぶりながらしるしを打っている時の緊張感が強く伝わってきました。色ぬりでは少しづつ細い針を動かしながら、手間をかけて作業しているのが、手間や時間をかけるからこその仕上がりの良さを完成するのだと思いました。また、桜井凧の種類が多岐にわたりました。わたしは桜井凧というも種類がいろいろあるのを見て、よく考えようと思った。その種類として、かわいらしいのなと思いました。また、桜井凧をつくるのなら、一番意外だったツバメもつくってみたいと思いました。また、凧をよけていこうと見ても、みんな楽しそうに笑顔をみせていたり、凧をつくったりする中で昔の思い出を思い出している方がいて、凧は人を楽しませて笑顔にしたり、思い出を思い出させる力があるのだなと思いました。凧は江戸時代のころからつくられたと知って、人を笑顔にするか、思い出を思い出させるか以外にも、文化を大切にすることを産み出す力など、様々な力を持っているのだと思いました。

NHK やまびこキャンプに参加しました

8月10日から2泊3日、愛知県豊田市の旭高原元気村でNHK厚生文化事業団中部支局 主催の「やまびこキャンプ」に参加させていただきました。

やまびこキャンプは主に発達障がいのある小学生を対象にした、今年で28回目の大変伝統あるキャンプです。

愛知教育大学の学生や現職の先生方がボランティアスタッフとして活動されており、総勢110人がまさに一つとなり、まるでミュージカルのような感動的なキャンプでした。

普段、高齢者施設で仕事をさせていただいておりますが、発達障がいの子もたちとふれあうことで色々勉強になった3日間でした。

大変貴重な、そして素晴らしい経験をさせていただきありがとうございました。

担当：あいふるの里 岩田 聡・小川の里 永谷 典久



愛知慈恵会 介護員養成講座（ヘルパー2級）

平成23年度は、6月4日から開始致しました。受講人数は15名です。

現在は講座も最終段階の基本介護技術の取得の実技研修に入っております。

愛知慈恵会での介護員養成講座も一宮地区で5回目の開催となります。

受講理由をお聞きしますと、これからの仕事に活かしたいという理由や、家族の介護が必要となった時に役立てたいという方もあり、熱意に満ちた教室となっております。

一昨年にお姉さんが受講したので、今回は妹さんとお母さんも一緒に受講している生徒さんもいらっしゃいます。

最後まで受講して、これから施設実習も頑張りたいと応援しております。

訪問介護員養成研修事業所 所長 長野秀人



夏祭り

マグノリア

第3回感謝祭

7月23日に、ご家族・地域の方を招き、日頃の感謝を込めてお祭りを開催しました。午前は、音楽療法のハンドベルやきらきら体操の先生方のダンス披露、さらに日本舞踊西川流西川長秀様による日本舞踊をご披露いただきました。午後は、各階にて食事をご用意し、ご家族との団らんを楽しんでいただきました。



あいふるの里

太鼓が響く夏祭り



夏祭り恒例「盆踊り」



浴衣にお着替え

8月初旬、盛大に夏祭りが行われました。ファミリーは浴衣に着替えてにこやかな表情に。一緒になって盆踊りの輪にはいるファミリーも発見!! ファミリー・ご家族・スタッフ全員で夏の夜を楽しみました。



あいふる名物「火舞」

萩の里

大盛況！萩の里夏祭り

8月20日、萩の里で夏祭りが行われました。天候を考慮して食堂ホールにて行いましたが、盆踊りや鳴子踊り、スタッフ仮装による体操・ダンスに、ファミリーやそのご家族が皆さん笑顔で参加され、大盛況でした。



デイサービススタッフによるマルモリ体操です。スタッフのメイクが少し怖いですが、お子さん達は夢中で踊って見えました。



音楽療法の成果をファミリーに披露していただきました。鳴子を持つ手にも力が入って見えました。

小川の里

夏祭りを楽しみました

施設長の挨拶で夏祭りが始まりました。会場には安城七夕音頭や炭坑節の力強い唄が響き、屋台からは食欲を誘う匂いが広がり祭りをいっそう盛り上げました。とくに新人スタッフの出し物は祭りに華を添えました。唄って、踊って、食べて、笑った一日でした。



新和楽荘

室内の夏祭り。

あいにくの雨の為、食堂での開催となりました。盆踊りや花火など見ることはできませんでしたが新和楽荘フラダンスクラブのファミリーの方達がフラダンスを披露して下さい、皆さん喜んで見えました。



瀬音さくら山荘

第3回開所記念祭（さくら祭り）

ファミリーに交じって地域住民の方々やファミリーのひ孫さん達も一所懸命踊っていただきました。



新和楽荘ファミリーによるフラダンスを披露して頂きました。



毎年恒例の白水太鼓様による迫力のある太鼓を披露して頂きました。

今年度のさくら祭りを無事終える事が出来ました。皆様のお力があってこそ盛大に行える事が出来ました。誠にありがとうございました。

愛知慈恵会 平成 23 年度入社式

平成 23 年度新入職員より一言

今年は 24 名の新入職員が入社され、半年が経ちました。仕事にも慣れ、顔つきが 4 月の頃よりも頼もしく感じられます。色々思い悩むこともあると思いますが、何事にも前向きに、失敗を恐れず、ぶつかっていきましょう。皆さんの「若さ」を頼りにしています。



小川の里
三浦 ひかり (調理課)

私は今、栄養士として調理に関わっています。初めはわからないことや不安も多くありましたが、上司や先輩が皆、良い方ばかりで、最近やっと慣れてきました。10 月からは管理栄養士として、ファミリーと今まで以上に密に接することができたと思うので、とても楽しみにしています。まだまだわからないこともありますが、上司や先輩を見て色々な事を学び、成長していきたいと思っています。

創作キルト常設ギャラリーが完成

小川の里では栗林静江先生の創作キルトの「常設ギャラリー」を設置致しました。ファミリーをはじめ、来館されるお客様に大変喜ばれ、感嘆の声が飛び交っています。定期的に作品を入れ替えさせて頂く予定ですので、お近くにいらした際は、ぜひお立ち寄り下さい。

現在展示中の作品

作者	栗林 静江
作品 No.	19
作品タイトル	富士、雲を創る
製作年	1995 年
作品解説	お手玉の ごと雲創る 青き富士
サイズ (H×W)	191 cm × 142 cm

日本のキルト 100 人展 (朝日新聞社) 出展作品



編集後記

一宮市尾西歴史民族資料館を見学させて頂きました。資料館を見学させていただく前に、実際に機屋 (はたや) さんをされていたファミリーから機屋さんのお話をお伺いしておりましたので、見学させて頂くことを楽しみにしておりました。資料館には織物工場模型や糸車、綿操機といった昔懐かしい物がたくさんありました。その中で学芸員の方から、毛織物の町といわれる尾西も機音がだんだんとなくなっているという現状を聞き、今は「少し昔」でも、いつの間にか「ずっと昔」になっていく町の様子を残していくべきだと痛感いたしました。

祭りばやし 54 号 編集長 K.T

今昔物語

第14回



中里寛治さんは、昭和 4 年 3 月 20 日に長崎県佐世保市で 7 人兄弟の 4 番目としてお生まれになり、現在 83 才になられます。

平成 22 年 9 月よりあいふるの里デイサービスに通所され、お元気に過ごされています。

「佐世保は造船の街ですね。」と尋ねると、「戦艦大和、武蔵、乗組員 6000 人を超える空母が家の前の海を通って行ったわ。」と懐

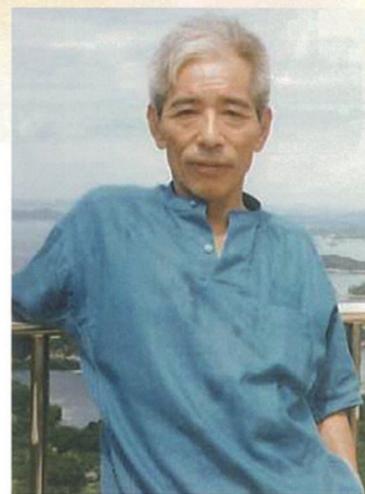
かしように目を細められました。

長崎で中学、高校、学徒動員時代を過ごされ、その後、東京の大学へ進学されました。学生時代には勉強が好きで、今でも英語で日常会話ができるほどです。

縁あって一宮市に就職され、機械開発や営業管理職の仕事に携わり、その後、ご結婚され、4 人のお子様に恵まれました。「若い頃は、家庭より仕事が優先だった。一生懸命仕事をすればする程、結果の出る時代だったが、男の社会は競争ばかりで本当に厳しかった。そんな中、子どもたちは皆、いい子に育ってくれた。妻に感謝している。」と話して下さいました。今は 5 人のお孫さんがよくお家に遊びにいらっしゃり、賑やかな日々を過ごされています。又、奥様のエイ子様はあいふるの里ボランティアグループ「ほたるの会」に所属され、ご活躍頂いております。

趣味は釣り。子どものころから長崎の海で培った腕で、定年後 21 年間毎日のように釣りをされ、「浅井山の主」の異名を持って見えます。「(病院からの) 退院後は息子に叱られるからなかなか釣りに行けないけど、こちらの者には負けんぞ。」と笑って見えました。

持ち前の明るさと人の良さで、中里さんのまわりにはいつも人が集まってきました。そんな中里さんから、友人の大切さ、仕事をする事の厳しさを改めて教えて頂きました。



今回は、「今昔物語」と題しまして、
ご利用者の歩まれた様々な人生にスポットを当て、
若かりし頃の思い出や、現在の生活を語っていただきます。
今回は、あいふるの里のご利用者、中里 寛治さまにお話を伺いました。

